

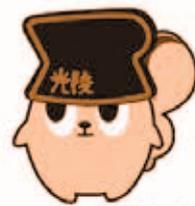
ごんた坂

第27号

光陵高校同窓会会報

〈発行所〉神奈川県立光陵高等学校光陵会

〈印刷所〉SALAT 株式会社 サラト



©大塚あゆみ



改修後のきれいに整備された中庭

年を取るといふこと

会長 太田 秀和 (2期)



母校の耐震工事は、着々と進んでいます。中庭が改修されて、開放感溢れた素敵な憩いの場所になっています。そこに立っているいろいろなことを思いました。

コロナの不安は、しばらく続きそうですが、光陵会のスタッフを拝見していると、若さはコロナに勝つと信じられます。私は古稀(70歳)になり、とても若さでコロナに勝つわけにはゆきませんが、年を取っていくことも悪くないな、と時々思います。

「高齢者」が持っている「若さに負けない」ものは何か時々考えますが、なかなかみつかりません。しいていえば、「高齢者」の利点は、競争を意識しなくて良い世界に住んでいるということでしょうか。現役社会人の頃は、人に負けたくない、というような、他の人との比較の世界に住んでいましたが、今は競争という発想はなくなりました。周りの人達が楽しく、そして自分も楽しく、という世界が一番と思うようになりました。年を取ると穏や

かな競争のない世界を楽しめます。時間に余裕があるので、従来は目的地への往復でしたが、今は目的地の周辺地や歴史などにも興味を持てるようになりました。

そう思えるのも、光陵の仲間が存在があるからです。今も多くの仲間達と会い、楽しい時間を過ごすことができます。年齢が違う同窓生とたった3年間の期間を共有しただけなのに、光陵時代の話に今でも花が咲きます。私の人生の大きな方向は、ここ光陵で決まったと思います。ほかの仲間のそれぞれにも光陵の大きな影響があったのでしょうか。

やはり光陵の仲間と会い、大いに笑い合えることは貴重です。光陵の仲間達の存在は、年を取ってから大きな意味を持ちます。皆さんもまずはクラス会、そして同期会、最終的には我々がお手伝いしている光陵会という同窓会を活用してください。

まだまだ一堂に会して、光陵会の総会、懇親会を開催することはできませんが、必ずコロナ禍は終息すると信じています。それまで、皆さんのご健康とご活躍を心から願っております。

最後に、若さ溢れる光陵会事務局の皆さんの活動に感謝しております。

止まらない光陵の変化

事務局長 櫻井 悠貴 (51期)



みなさんは、卒業してから光陵高校の様子をどのくらいご存じでしょうか。先日、光陵を訪れると、年季の入ったベンチや大きなオブジェが置いてあった中庭が、きれいに整備されていました。在学当時は、建ったばかりのプレハブ校舎を目に友人と「完成まで何年もかかるね」と言っていたのですが、時の流れは早いものですね。中庭が整備され、職員室もプレハブから元の場所に戻り、耐震工事の完了が近づいてきました。月に一度ほど光陵へ訪れる機会がある私でさえも、光陵の変化

のスピードには毎回驚かされます。その変化は学校の外観だけではありません。ホームページから校内見学をできるようになったり、教職基礎という科目が増えたりと、光陵の取り組みにも大きな変化があります。

光陵会は、卒業生と現在の光陵を繋ぐ架け橋となるような活動をしております。その活動の一環である「ごんた坂」では、光陵高校や卒業生に焦点を当てた内容を会員の皆様にお届けしています。光陵高校や現役生の発展を知ると、光陵愛のある私たち卒業生は誇らしさと同時に嬉しさを感じると思います。「ごんた坂」を手に、光陵高校の様子を知り、思いを馳せていただくと幸いです。

最後になりましたが、会報の発行にあたってご協力いただいたすべての方々に心より感謝申し上げます。

新規開講!

教職基礎

県、大学と共に取り組む教職基礎とは？

光陵高校では、令和3年度から新たに学校設定科目として「教職基礎」を開講した。教職志望者や教職に興味がある生徒に対し教職への理解を深めるとともに、その資質・能力や意欲の一層の向上を目的としており、光陵独自の科目として設置されている。神奈川県教育委員会や県立総合教育センター、横浜国立大学教育学部などと連携したプロジェクトとして誕生したこの科目は、神奈川県教育長より「神奈川県教育委員会職員功績賞」を受けるなど、注目を集めている。

概要

■開講の背景

近年光陵は「中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築 実施計画(平成19年12月)」に基づき横国大付属中との連携が進んでいたが、その結果県立総合教育センターが主催する「高校生のための教職セミナー」を受講する生徒や、横国大や他大学の教育学部を志望する生徒など、教職への興味を持つ生徒が増加していた。神奈川県教育委員会、横国大との中高大連携のさらなる推進に向けた議論の中、「教員志望の生徒が多いことを活かした光陵独自の取り組み」の実施が検討され、東京都や千葉県において先行実施されていた「教員志望の生徒を対象とする選択科目」の開講が進められたという。開講に当たっては県内での先行事例が少なく、また複数回行う形の独立した授業ではなく、通年開講する科目の形をとったことで、まさに0ベースから作り上げる形となった。光陵の先生方によるワークグループは、他県へ幾度となく視察を重ねたり、横国大との協議を重ねたり、外部講師との調整を行いながら開講へと進めたという。

■参加条件

教職基礎は、通常の授業では得ることができない経験が提供されることから、受講希望者も多い。しかし受講するためには

- ・講座への原則毎回出席(部活よりも優先)
- ・課題は必ず提出する
- ・全授業へ真摯に取り組む・これらを守る意思表示のための宣誓書を書くこと

といった条件を満たすことが求められる。土日の出席、通常の授業に加えた課題の提出の義務化など、厳しく設定されているが生徒に対して本気で授業を受けることを求めている点からも、このプロジェクトへの学校側の本気度が現れている。

■科目の特色

教職基礎は外部の講師、または横国大実習生や他校生徒と進められている形をとっている点が特徴的だ。これはあえて校内の先生方が話す機会を少なくし、普段接することのできない方と接し、新しい学びを得てほしいという意図が反映されている。カリキュラムは大学講師による講演、横国大、付属中、その他近隣小中高との連携、神奈川県総合教育センターで行われる「高校生のための教職セミナー」への参加が含まれている。光陵に設置された科目ではあるが、授業の多くは光陵の教員ではなく教員養成に実際に携わっている方が講師となって進められている。これにより生徒は教育に関する実践的なレクチャーやワークショップを受けたり、大学の教職課程さながらの内容を学ぶことができる。座学だけではなく、ワークショップも多く盛り込まれているという。またグループワークでは他校の生徒や横国大の教育実習生とコミュニケーションをとり、意見交換する場も設けられている。横国大の実習生とは「教師と生徒」としての関係だけでなく、本音で会話することができる機会が多い。実習生がどのような思いで教職を目指しているかという赤裸々な話や、教職を目指す上での悩みについての相談もあり、教員の様々な側面をしっかりと理解した上で教員を目指すか否かを判断してほしいという学校側のメッセージはこういったところにも現れている。

■光陵らしさが出る授業として

前述の通り、教職への理解を深めることを目的とした科目を開講することは神奈川県においても前例がなく、光陵の大きな特徴となっている。実際に光陵の学校説明会においても「教員になりたい生徒は光陵へ」というキーワードで、必ず教職基礎がアピールされているようだ。科目の開講準備を担当した小金丸先生は、今後より内容を充実させていきつつ、「教える」「学ぶ」ことに関心を持った幅広い生徒が魅力を感じられる科目を目指していきたい、と話している。今後県内から「教える」ことに対して意欲を持った生徒が集まる高校となっていくかもしれない。光陵はこれまでも独自の取り組みとして、生徒が設定した課題に対する調査・考察を行い1万字近い論文へとまとめる「KU」、そしてその研究結果を横国大、横国大付属中と共同して発表する「i-ハーベスト発表会」を実施していた。そこに教職希望者が多いという環境を活かし「教職基礎」を開講したことで、その独自性は一層際立っていくことだろう。今後も独自の特色に磨きをかけていく母校の進化に、ぜひ注目していきたい。

内容	場所	講師	学習事項
オリエンテーション	本校	本校職員	本科目の学習内容および「高校生のための教職セミナー」の概要について学習する。
教職に関する基礎ガイダンス	本校	学校長および本校職員	教職に関する基礎知識について学習するとともに、「高校生のための教職セミナー」の事前学習を行う。
教職に関する基礎学習課題	本校(家庭)	本校職員	教育に関する課題図書を読み、レポートを執筆する。
高校生のための教職セミナー①「教員になるためには」	総合教育センター	指導主事 他	総合教育センターにて「高校生のための教職セミナー①」を受講する。
高校生のための教職セミナー①「振り返り」	本校(家庭)	本校職員	「高校生のための教職セミナー①」を振り返り、レポートに取り組む。
高校生のための教職セミナー②「コミュニケーションの能力の育成」	総合教育センター	指導主事 他	総合教育センターにて「高校生のための教職セミナー②」を受講する。
高校生のための教職セミナー②「振り返り」	本校(家庭)	本校職員	「高校生のための教職セミナー②」を振り返り、レポートに取り組む。
高校生のための教職セミナー③「インクルーシブ教育」	総合教育センター	指導主事 他	総合教育センターにて「高校生のための教職セミナー③」を受講する。
高校生のための教職セミナー③「振り返り」	本校(家庭)	本校職員	「高校生のための教職セミナー③」を振り返り、レポートに取り組む。
横浜国立大学教育学部講演会	本校	横浜国立大学教授	本校生徒対象の「横浜国立大学教育学部講演会」を受講する。
横浜国立大学 教育実習生とのワークショップ	本校	横浜国立大学教育実習生	本校で教育実習を実施する横浜国立大学教育学部学生と、教職について協議する。
高校生のための教職セミナー④「授業づくりを学ぶ(理論編)」	総合教育センター	指導主事 他	総合教育センターにて「高校生のための教職セミナー④」を受講する。
高校生のための教職セミナー④「振り返り」	本校(家庭)	本校職員	「高校生のための教職セミナー④」を振り返り、レポートに取り組む。
高校生のための教職セミナー⑤「授業づくりを学ぶ(実践編)」	総合教育センター	指導主事 他	総合教育センターにて「高校生のための教職セミナー⑤」を受講する。
高校生のための教職セミナー⑤「振り返り」	本校(家庭)	本校職員	「高校生のための教職セミナー⑤」を振り返り、レポートに取り組む。
高校生のための教職セミナー⑥「教員をめざす皆さんへ」	総合教育センター	指導主事 他	総合教育センターにて「高校生のための教職セミナー⑥」を受講する。
高校生のための教職セミナー⑥「振り返り」	本校(家庭)	本校職員	「高校生のための教職セミナー⑥」を振り返りレポートに取り組む。
学習成果発表会に向けた準備	本校(家庭)	本校職員 教職大学院学生	横浜国立大学教職大学院学生(インターン学生等)の支援を受けながら、学習成果発表会の準備を行う。
学習成果発表会(学習のまとめ)	本校	学校長および本校職員	1年間の学習の成果発表および振り返りを行う。

先生・受講生インタビュー



新たな選択科目として開講された「教職基礎」。県立高校の普通科になぜ「教職」に特化した科目が設置されたのか、またどのような生徒が受講を希望し、学びを得ているのかを探るべく、教職基礎開講の準備を担当された小金丸先生と教職基礎の初年度履修者である54期生の藤田さんと長谷川さん取材した。

(以下 小金丸先生：丸 長谷川さん：長 藤田さん：藤)

この科目が開講されると聞いた時のことを教えてください。

藤：中学生の頃から学校の先生になりたいと思っていましたので、すごく幸運だなと思いました。厳しい条件はありますが、学校の先生を志望する人が集まる中で学べるから、恵まれているなと思います。

長：私は教員になりたいというよりは、教育の仕組みについて聞いて、教員とはどういうものなのかを知りたいと思って受講しました。

教職基礎は「教員を目指す生徒向け」と伺いましたが、教員になることを決めている生徒ばかりではないかと思います。どのような生徒を対象とした科目なのでしょう。

丸：「目指す」という言葉を広い意味で捉えており、教えることへの興味があれば、教職基礎を受講する資格を持っていると考えています。ただし本気で受講することを示すため、生徒には、真摯に取り組み、全授業への出席と課題の提出することを約束してもらっています。

では、この授業は教員志望でなくても、教育に興味があれば受けることができるのですか。

丸：はい。更に「教職基礎」1単位分履修することが厳しい生徒は、特定の授業だけ参加する「バラ受講」が可能です。部活の都合などで教職基礎を受講できないという生徒にも応える形で始まりましたが、受講できる生徒を増やすことで、この新科目をより学校に浸透させ豊かな取り組みとなっていけばと考えています。

印象に残っている授業があれば教えてください。

藤：聞き手の態度を1回目と2回目で大きく変えて最近の出来事を伝えるというワークショップです。相手へ最近あったことを2回繰り返して伝えるのですが、1回目はちゃんと聞く、2回目はスマホ見たり本を読んだりしてあえて無視するという形式で行いました。聞き手に興味を持ってもらえるように伝えるのは難しいなと感じましたし、先生方の大変さがわかりました。

長：総合教育センターでのセミナーで実施されたグループワークが印象に残っています。教職基礎ではグループワークが多く、他校の生徒とも一緒に取り組む機会が多くありました。光陵の中では体験できない経験をしたり、他校とのグループワークで知らない人から新たな学びを得ることができました。



新しい授業への想いを先生、生徒の両方からお聞きすることができました。



今回インタビューをお受けいただいた皆様(左から小金丸先生、藤田さん、長谷川さん)

担当の先生として印象的だった場面はなにかありますか。

丸：教育実習生と光陵生が一緒になって授業を受ける中で、若い人同士の互いに学び合う姿に可能性を感じました。光陵生は普段接する教員より歳が近く身近な先輩の姿から学びを得ることができていると思いますし、実習生も生徒から学ぶことが多いはずで。

教職基礎を受けたことで、「教職」に対してのイメージに変化はありましたか。

藤：私は教員になりたいと昔から思っていました。教職の授業を取り、改めて大人数を前にして話すこと、教えることの大変さを実感しました。

長：「教員」と聞いてまず思い浮かぶのが、過重労働などのマイナスなイメージだったんですが、それを上回る達成感があることを教職基礎を通して知ることができました。

この授業を通して学んだこと、感じたことを教えてください。

藤：先生は学んできたことを生徒たちに発信する立場だと考えていましたが、相手にする生徒や時代の変化に合わせる必要があるため、先生になってからも常に学びつづける姿勢が大切だなということを実感しました。

長：いまま教職を目指すかは迷っています。ただこの科目を通し、教える際のコミュニケーション方法や、提案の仕方など教職以外の役に立つ内容をたくさん学ぶことができ良かったです。

教職基礎について、今後どのようにしたいとお考えですか。

丸：教職を目指す生徒も沢山いますが、教職の授業を通して、進路に関して考える空気が全体に広がるといいなと思います。「教職基礎」は教職を志す生徒のためだけの授業ではなく、光陵が目指す「心やさしき社会のリーダー」に必要なスキルとしての「教える」「学ぶ」力を伸ばせられる授業です。そういった意味では全員に受けてほしい内容ですので、できれば必修科目とし光陵の文化の一つとしていきたいです。

(52期 南香帆、52期 吉川佳歩、53期 山野上葉音、53期 長島海咲)

編集後記

最後に小金丸先生が仰っていたように、「教職基礎」という授業は、高校生のうちから自分が何を学びたいのか、何をすべきなのかという将来のビジョンを考えるきっかけになると思います。私も高校生に戻れるなら、ぜひ受講したいと羨ましく感じました。

(53期 山野上)



OBインタビュー

海外へ飛び出した若きノマドワーカー

「これが自分の人生でやりたかったことなのかな」という疑問から新卒で入社した会社を辞め、世界に飛び出した光陵生がいます。自由を求め、ノマドワーカーとして世界各地で働いている小林航さん（46期）にその胸中を伺いました。

※ノマドワーカー…場所に縛られずPCやスマートフォンを用いて自分の好きな場所で仕事をする人。



〈プロフィール〉

2014年早稲田大学入学、2018年にセント・メアリーズ大学に留学。同年、帰国後大学を卒業し株式会社INPEXに就職。入社1年目にして海外赴任を経験し、2021年に退職後ノマドワーカーとなる。現在では海外を旅しながらオンラインサービスを通じた日本語教師や動画編集を生業としている。趣味で投稿している自身のYouTubeチャンネルでは、230万回超え（2022年2月時点）の再生回数の動画もあり、クリエイターとしても活躍している。

趣味で投稿している自身のYouTubeチャンネルでは、230万回超え（2022年2月時点）の再生回数の動画もあり、クリエイターとしても活躍している。

— 現在のお仕事をしていて、小林さんの中で変化した価値観などはありますか。

長期間海外にいて、人生のあり方は一つではないのだなと思うようになりました。海外、特にヨーロッパでは、大学卒業後、仕事を始める前に数年間旅行をしてみるという人や、自分と同じようにノマドワーカーをしている人などがいて「こう生きなければいけない」というものに縛られる必要はないと、海外に来てより強く実感しています。

— 今に活きている学生時代の経験は何かありますか。

光陵高校に在学中は吹奏楽部に所属していました。吹奏楽は高校からはじめてこともあり、周りよりも劣っていたかもしれませんが、自分を信じて努力し頑張ればどうにかなるという経験を得られました。この経験は、フリーランスとして自己責任が求められる場面が多いなかで、何があっても自分を信じて頑張っている今に繋がっています。

— なぜノマドワーカーという働き方をされているのか、きっかけを教えてください。

元々学生の頃から海外で働きたいという思いが強くてINPEXに入社しました。私は恵まれていて、1年目から数か月おきに海外で仕事をする機会がありました。確かに海外で仕事をするという自分のやりたかったことはできていたのですが、派遣先や仕事内容は会社が決めるので、もう少し自分自身で何をするかを決定したいと感じるようになりました。そこで人生の主導権を得るためにフリーランスという形で自由に仕事をしようと思ったことがきっかけです。

— 会社を辞めてノマドワーカーとしてフリーランスで働くことへの不安はありませんでしたか。

やはり収入面での不安が一番大きかったです。

そのため会社を辞める前に、1年半ほど現在の仕事であるオンラインの日本語教師をやってみました。フリーランスとなっても収入の観点で大丈夫だと確信したため会社を辞めたという感じですね。また、そのように準備してきたので、会社を辞める際は楽しさ7割、不安3割という感じで、不安を上回る楽しみな気持ちがありました。

— ノマドワーカーとして働くことの原動力は何でしょうか。

幼い頃から海外の文化や日本にない景色を見ることに興味があって、それを叶えるというのが今のモチベーションや原動力になっています。同じ場所に滞在するよりも、私はとにかく色々な世界を見て回りたいという思いがあって、ノマドワーカーという働き方を選択しました。



今回フランスからZoomにてインタビューにご参加いただきました。

— 新しいことに挑戦をしたいと考えている人へメッセージをお願いします。

日本では新しいことに挑戦するということに対して応援する風潮があまりないのかなと感じます。もちろん応援してくれる人はいますが、「大丈夫なの？」という風に心配をしてくれる方が多い印象です。

私は何か挑戦をするにあたり、周りの人の助言を聞きつつも最終的な決定は自分ですべきで、思い切って自分の心に従って決断してみると悔いのない選択ができると思います。

また、多くの人に海外に行ってもらいたいとも思います。国にもよりますが、海外のほうが年齢を気にしない人が多いと感じています。例えば西ヨーロッパだと50代の人でも転職をして自分のやりたいことをしている人の話を聞くので、年齢や家庭を理由に新しいことへの挑戦がしづらいという固定観念は日本のほうが強いのかなと思います。このように海外には日本の常識では考えられないことがたくさんあるので、きっと人生観が変わるような経験ができるのではないのでしょうか。

(52期 寺田祐晟、52期 牧野暖登)

光陵の教壇に立ってみませんか?

～キャリアガイダンス講師募集のお知らせ～

光陵高校では毎年3月に、1・2年生対象の「キャリアガイダンス」というプログラムを実施しています。キャリアガイダンスとは、さまざまな分野で活躍する卒業生が、仕事の内容や進路選択の過程を現役生にお話しし、将来のキャリア形成に役立ててもらおうというものです。

2021年度は、3月12日(土)にオンラインで開催され、十数名の卒業生にご協力いただきました。弁護士、薬剤師、ホテルコンシェルジュなど各界の卒業生のお話に、現役生は真剣に耳を傾けていました。幅広い業種に従事する講師らが高校時代の体験談を交えて熱く語る講義は、現役生にとって将来のキャリアを考えるきっかけになるとともに、社会に出た光陵の先輩とのつながりを感じられる貴重な機会です。また、講師同士が異業種交流を通じて光陵の絆を再確認する場ともなっています。

光陵会は講師をしていただく卒業生を光陵高校にご紹介する形で、このプログラムに協力しています。趣旨に賛同していただき、講師としての参加に関心のある方はぜひ「光陵高校内光陵会」(住所: 保土ヶ谷区権太坂1-7-1、メールアドレス: staff@koryokai.jp)までご連絡ください。

また、光陵会では卒業生にご職業などの人材情報を登録していただく「光陵卒業生人材バンク」を運営しております。人材バンクの情報はキャリアガイダンスへの講師紹介などに活用させていただきます。ご協力いただける方はぜひ上記連絡先までご連絡ください。



オンラインで登壇した講師の方々

寄贈事業報告

光陵会では毎年、光陵高校に寄贈を行っております。2021年度は学校側からの寄贈品の希望が無かったため、寄贈は実施いたしませんでした。今後も有意義な寄贈が行えるよう取り組んでまいりますので、会員の皆様のご意見・ご要望がございましたら、ぜひ同封のハガキでお寄せいただけますと幸いです。

母校の最新情報

進路状況 (光陵高校HP)



<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/koryo-h/shinro/shinrojoyoukyo.html>

部活動実績 (光陵高校HP)



<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/koryo-h/seikatsu/bukatsudou.html>

教職員異動 (神奈川県HP)



<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/85760/20220330kenritsu.pdf>

「卒業生からの便り」

- 懐かしい皆様へ、私は獣医師になり動物病院を開業して早40年になります。もう少し頑張ります。(ドリトル動物病院 院長) (6期)
- 沖縄に移住して2年経ちました。毎朝海岸を散歩してます。先日年初のウミガメの上陸がありました。去年はたくさんの子亀が海に帰るのが見られました。今年も楽しみにしています。(7期)
- 8期36組(長坂組)は60歳の還暦を機に、クラス会を毎年開催し、親交を温めています。ただ、コロナにより2年連続クラス会開催を見送り、一部男子メンバーによるゴルフ懇親を継続しています。一刻も早いクラス会の再開を願っています。(8期 goodchoice様)
- 「卒業記念品ツアー」、とても面白かったです。これからも、期待しています。(9期)
- この度、県立高校を定年退職し、県立高校で再任用しています。毎日電車から母校を仰ぎながらの通勤。校長は12期の方で、光陵つながりです。(11期)
- 「卒業記念品ツアー」楽しく読ませていただきました。自分の期では何を残したのか…覚えていません。もしかしたら野球部のボールが線路に落ちない様にネットだったのかも。(12期)
- 今年の2月より主人はドイツに駐在しています。元々日本に収まりきらない? タイプなので生き生きと仕事をしている様です。クラスメートだった私たちは結婚して28年間毎日同窓会をしているような生活をしています。今は離れて暮らしていますが、8月に私もドイツに行く予定です。盛会をお祈りしております。(15期)
- 2019年に青春かながわ校歌祭の練習で、本当に久しぶりに校歌を歌いました。コロナ禍になり、皆で集まり大声で歌えることの幸せを改めて感じています。(15期)
- いつもお世話になりありがとうございます。このような状況の中でもいつもと変わらず運営していただき心より感謝いたします。(16期)
- 昨年8月末で長年勤めた金融機関を退職し、第二の職場に勤務しています。本当に時が経つのは早いですね。(17期)
- 会報の特集「卒業記念品」は懐かしくまた、興味深く拝読しました。それぞれの卒業記念品が後輩たちの日常的に溶け込み、嬉しく思いました。(18期)
- 幹事の皆様にはいつもお世話になっております。直接お目にかかれないのは残念ではありますが、リモートということで逆に海外からも参加させていただけるのはうれしいことです。今後ともよろしく願っています。(18期)
- コロナ禍で事務局運営も大変だと思います。ご尽力に感謝しています。歴史を紡いでくださるよう、お願いいたします。(18期)
- 20期の人で時計や温度計を寄贈したとは知りませんでした。(20期)
- 光陵から徒歩15分の実家に戻り、久々に母校に足を運ぶと保土ヶ谷養護学校の前の急坂を走り込みしている現役光陵生に出くわしたことがあります。三十数年ほど前に私も部活の練習でこの急坂をダッシュしていたんだって声を掛けられたんですが、不審者のおじさんと思われそうだったので素知らぬ顔で通り過ぎました。心の中では頑張れよって声を掛けました。若いって素晴らしいと思えた出来事でした。(21期)
- いつも会報ありがとうございます。年に1回だけでもこのように様子が知れることが大変嬉しいですよ。(31期)
- ごんた坂26号の卒業記念品特集はとても良かったです。写真を見て懐かしい気分になったのと同時に卒業記念品とは知らなかったものもあり驚きました。素敵な会報をありがとうございます。(36期)
- 光陵時代の友人達と子連れ同窓会したい。一日も早いコロナの終息を願います。(38期)
- コロナ禍の中、光陵会の皆さまが活動してくださっていることに感謝致します。先日のバンキシャに光陵高校が出ており、懐かしい母校を見て胸がいっぱいになりました。(40期)
- 卒業後しばらくは年に一度、光陵祭へ母校の空気を吸いに行っていたのですが、大学の研究室(土曜あり)や合宿、昨年にはCOVID-19と、様々な障害と言いついによってご無沙汰してしまっております。同じ大学ですと化学をやっていますが、気づけば現役の皆さんとは一回り以上年が離れてしまってます(汗)自分が科楽部で大量に作った発泡スチロール球の分子模型、健在かなあ。一部でも活用していたら嬉しいのですが。ここに書いて意味があるか不明ですが、邪魔だから捨てるようであればご一報ください…。(41期)

「ご意見募集のお知らせ」

光陵会では会員の皆様のご意見・ご感想を、総会懇親会出欠登録用のWebフォーム内で募集しております。光陵高校で過ごした思い出や会報を読んで思い出されたことなど、ぜひお聞かせください。来年度の『ごんた坂』で一部をご紹介しますことができます。

会報発行協力金のお願い

会報発行協力金にご協力いただき、誠にありがとうございます。

本会報の発行は2009年から名簿委託業者である(株)サルトとの共同事業の契約とし、会報発行費用は最大負担額を定めた独立採算制となっております。会員の皆様には、会報発行費用について賛助協力金として1口2,000円をお願いしております。本年度もコンビニエンスストアで決済可能な振込用紙を、失礼を承知の上で同封させていただきました。

光陵会事務局は今後も存続し、母校への発展寄与のため力を尽くしてまいりたいと一同強く願っております。何卒、皆様のご理解とご協力を願いたします。また、従来からお願いをさせていただいております光陵会への直接の賛助金も受け付けておりますが、これを機会にぜひ会報発行協力金にご賛同いただけますよう、どうぞよろしく願いたします。

※会報発行協力金は発行費用(約200万円)を上回ります賛助協力金をいただいた場合、上回った分の8割が光陵会への賛助となる仕組みです。※同封の振込用紙は、郵便振込を利用されますと金額の訂正が可能となります。コンビニエンスストアを利用される場合は一律2,000円となりますのでご注意ください。

♪ 青春かながわ校歌祭のお知らせ ♪

今年第17回の校歌祭は開催予定となり、光陵会も参加を予定しております。

例年、光陵高校の音楽室などをお借りして練習会を行っておりますが、新型コロナウイルスの感染対策を踏まえた練習における注意点、その他日程、参加費(楽譜印刷代など500円前後)など、詳細はホームページ等でお知らせします。お問い合わせは光陵会スタッフ(staff@koryokai.jp)まで。

同窓生向け SNSのご案内

卒業後の交流の場として同窓生向けSNSが運営されています。加入希望、お問い合わせは下記へお願いいたします。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

URL: <http://www.koryo.gr.jp/sns/>

MAIL: koryo-kai-request@koryo.gr.jp

運営: 光陵会メーリングリスト (koryo.gr.jp)

2021年度総会・懇親会報告

開催日：2021年6月12日(土)

総会・特別講演 @オンライン Zoom

以下の議事項目がすべて承認されましたことをご報告いたします。
①2020年度決算報告、②2021年度予算案審議、③2021年度役員及び監査承認

特別講演は3期 関水 康司氏を講師にお迎えし、「私の職業人生とこれから」についてお話しいただきました。

懇親会

コロナウイルス感染症の拡大を受けまして、誠に残念ながら中止とさせていただきますが、特別講演後は参加者によるオンラインでの歓談の場を設けました。

2022年度には同窓生の皆さんの懇親の機会の方が提供できるように事務局にて検討中です。

～ 賛助金への御礼 ～

2021年度は、総会をオンライン開催とさせていただきました。そのため、直接のご支援を賜わる機会がございましたが、日頃の皆様の温かいお心遣いに深く感謝しております。引き続き充実した同窓会運営に努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

会員名簿の取扱いについて

光陵会では、2020年9月に皆様のご協力の下、会員名簿を発刊いたしました。光陵会では会員以外に会員名簿を配布することは一切なく、会員各位の情報が外部に漏れることのないよう、プライバシーマーク取得企業で名簿委託業者の(株)サルトとともに厳重に管理しております。皆様も名簿の取扱いには十分ご注意の上、外部への流出がないよう、ご配慮ください。

また昨今、光陵会の名を騙り、会員の皆様の勤務先への問い合わせや勧誘・物品販売などが行われているようですが、これらは光陵会とは一切関係ございません。内容を確認の上、適切にご対応くださいますようお願い申し上げます。

なお、会員名簿のご購入を希望される方は下記までお問い合わせください。光陵会事務局からお手続きの詳細の連絡をさせていただきます。事務局の定例作業等での対応となりますため、お手続きには1ヵ月程度のお時間をいただく場合がございます。期間の余裕をもってご連絡いただけますと幸いです。なお、会員名簿の販売は、原則お一人様一冊までとなります。



宛先:「光陵会事務局メールアドレス」 staff@koryokai.jp

会計報告

2021年度決算

(21/03/01～22/02/28)

(収入の部)

入会費・終身会費	¥3,040,000
懇親会会費	¥0
賛助金	¥0
名簿売上	¥0
その他	¥0
前年度繰越金	¥23,462,470
合計	¥26,502,470

(支出の部)

通信費	¥252,499
事務費	¥8,140
運営費	¥255,098
交通費	¥17,680
総会懇親会費	¥51,200
H P 運用費	¥24,200
会報費	¥500,000
校歌祭費	¥0
光陵祭費	¥0
高校寄付費	¥184,000
設備費	¥224,512
合計	¥1,517,329
収支差額	¥24,985,141

2022年度予算案

(22/03/01～23/02/28)

(収入の部)

入会費・終身会費	¥3,050,000
懇親会会費	¥0
前年度繰越金	¥24,985,141
合計	¥28,035,141

(支出の部)

通信費	¥300,000
事務費	¥60,000
運営費	¥500,000
交通費	¥100,000
総会懇親会費	¥100,000
H P 運用費	¥50,000
会報費	¥500,000
校歌祭費	¥70,000
光陵祭費	¥80,000
高校寄付費	¥400,000
設備費	¥150,000
合計	¥2,310,000
収支差額	¥25,725,141

2021年度光陵会役員・監査・事務局

会長	太田 秀和 (2期)	
副会長	大道 正夫 (4期)	山本 勉 (4期)
	茅野 憲 (7期)	中濱こずえ (9期)
	荒木 宏之 (19期)	藤原 直人 (31期)
理事	虻川 真紀 (25期)	増田 祐徳 (36期)
	金子 周平 (38期)	阿南紗智子 (41期)
	佐藤 楓 (42期)	藤居 悠人 (43期)
	山本 航介 (43期)	佐藤 昌 (44期)
	長尾沙津季 (46期)	
会計	菊名 直人 (42期)	寺田 祐晟 (52期)
	于 棋棋 (52期)	伊藤 空也 (53期)
監査	上原 武 (25期)	高橋 芳昌 (33期)
	柘植 貴之 (41期)	萬 紗帆 (46期)
事務局長	櫻井 悠貴 (51期)	
副局長	加藤 圭祐 (49期)	中村 凧沙 (49期)
	山下 粧子 (50期)	高橋 歩希 (52期)
	阿部 夢生 (53期)	
書記	松森 美春 (51期)	南 香帆 (52期)
	牧野 暖登 (52期)	吉川 佳歩 (52期)

2022年度光陵会役員・監査・事務局

会長	太田 秀和 (2期)	
副会長	大道 正夫 (4期)	山本 勉 (4期)
	茅野 憲 (7期)	中濱こずえ (9期)
	荒木 宏之 (19期)	藤原 直人 (31期)
理事	虻川 真紀 (25期)	増田 祐徳 (36期)
	金子 周平 (38期)	佐藤 楓 (42期)
	藤居 悠人 (43期)	山本 航介 (43期)
	佐藤 昌 (44期)	長尾沙津季 (46期)
	加藤 圭祐 (49期)	
会計	菊名 直人 (42期)	寺田 祐晟 (52期)
	于 棋棋 (52期)	伊藤 空也 (53期)
	田村 純也 (54期)	
監査	上原 武 (25期)	高橋 芳昌 (33期)
	柘植 貴之 (41期)	萬 紗帆 (46期)
	中村 凧沙 (49期)	
事務局長	牧野 暖登 (52期)	
副局長	山下 粧子 (50期)	櫻井 悠貴 (51期)
	高橋 歩希 (52期)	南 香帆 (52期)
	阿部 夢生 (53期)	新藤 さえ (54期)
	渡辺 銀河 (54期)	
書記	吉川 佳歩 (52期)	山野上葉音 (53期)
	長島 海咲 (53期)	

2022年度 光陵会総会・ 特別講演のご案内

2022年 6月11日(土)

新型コロナウイルスの影響に伴うオンライン開催と懇親会の中止について

光陵会では、2022年3月時点の新型コロナウイルスの状況を踏まえ、会員の皆さまの安全を最優先に考えた結果、**2022年度総会と特別講演をオンラインで開催し、懇親会は中止とする運びになりました。**

会員の皆さまと直接お会いできないことは誠に残念ではございますが、このオンライン開催を機に、毎年会場に足を運んでいただいている方だけでなく、遠方にお住いの方にも、ぜひご参加いただけましたら幸いです。

なお、ご欠席の場合も委任状のご提出をお願いします。

出欠(委任状)登録、会員情報変更のWeb利用にご協力ください

個人情報管理、経費削減、負担軽減等の観点から、**Web上での出欠(委任状)登録を推奨**とし、それ以外の方法をご希望の方のみ、郵便はがきでのご登録とさせていただきます。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

<出欠(委任状)登録方法> 登録期限: 5月27日(金)

Web【推奨】: 光陵会ホームページ (<http://koryokai.jp/>) 内の専用フォーム

郵便はがき : 会報同封のはがきに記入して郵送



光陵会HP

ご不明な点等がございましたら、光陵会メールアドレス (staff@koryokai.jp) 宛にご連絡ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

総 会

14:00～16:00(13:45開場予定)

場 所: オンライン開催 (Zoom使用)

会 費: 無料

<議事次第(予定)>

- 1 2021年度決算・監査報告
- 2 2022年度予算案審議
- 3 2022年度役員及び監査承認
- 4 事務局活動報告等

総会 特別講演「映画製作 こぼれ話」

講 師: **河野 典子** (旧姓 村上)氏 (4期 映画プロデューサー、放送作家)



◆**プロフィール(略歴)** 上智大学卒。慶應義塾大学院(修士)単位満了。映画は岡本喜八、篠田正浩監督の独立プロで、また東映・東宝等で多数の作品の製作、宣伝プロデュースに携わる。東京国際映画祭でも5年間スタッフを務める。放送作家としてはTBS「わくわく動物ランド」全民放「ゆく年くる年」等の番組台本を手がける。

◆**講演内容** 総合芸術と言われる映画は、長期間にわたり、大人数のキャスト・スタッフが一緒になって一つの作品を創り上げていきます。その製作現場では、各パートの“ものづくり”に対するプロとしての誇り、熱い思いがぶつかり合い、様々なドラマが生まれます。ハプニングや次々に起こるトラブル・・・毎日が刺激に満ちた闘いの場です。今回は、私が関わった作品の中でも思い出深い「男たちの大和」を中心に、製作中の秘められたエピソードをお話したいと存じます。